

## 足立学園中学校

### 算数

大問 5 題で、設問は約 20 問です。[1]は整数・小数・分数の四則計算と、□の値を逆算で求める問題が中心になっています。[2]は短文の文章題で、旅人算や仕事算などの問題です。[3]～[5]は応用問題で、速さや水量、面積・体積などの変化の様子をとらえる力や、数の性質や周期性に着目して、ある規則を発見する力などを求めています。図形の問題では、比例の考えを利用して解く力、点や図形を回転・移動したときの様子をとらえる力、立体図形の体積や切断面を考える力を見る問題を出題しています。

### 国語

基本的な読解問題が中心で、物語文（小説文）と、説明文か随筆文の大問 2 題構成です。物語文の文章読解では、登場人物の人間関係、主な出来事による登場人物の気持ちの変化が把握できているかどうかを見ます。また、説明文や随筆文では、問題提起・具体例・強調したい意見など、筆者の説明の流れを読み取れるかが大切です。本文を抜き出して答える際には書き写し間違いに注意しましょう。

### 理科

4 分野から、自然現象・実験・観察に関する問題を中心に、大問 5 題で満遍なく出題します。①文章を読み取り、そのなかの理学的現象を理解できるかどうか、②理学的用語の意味の理解、③グラフや表の読解、④実験に関する操作・装置・器具の理解、⑤観察した自然現象や目に見えない世界（原子・分子など）を頭の中でイメージし、それを文章や図で表現できるかどうかを重視します。

### 社会

3 分野から満遍なく、基礎的な問題を中心に広い範囲で 3 題出題するので、4 年生以降の教科書をしっかり復習しておくこと。公民は時事問題を出題する場合があります。歴史は幅広い時代・分野から出題。教科書をよく読み、時代ごとにまとめておきましょう。また、各都道府県の総合問題を出題するので、各地の代表的な産業・歴史上の人物・文化などに関することを整理して覚えましょう。

### その他の関連情報

※特別奨学生入試（午後入試）の問題は、一般入試（午前入試）より多少難しくなります。ただし、出題傾向は上記の内容とほぼ同じです。

## 海城中学校

### 算数

小学校で習う基礎をじっくり固めてください。思考力を問う問題が中心です。これにより、どの基礎的事項をもとにした問題かを見抜く力を問います。計算は実戦的に使える力をつける必要があります。

### 国語

まず、長文読解の力が必要となります。全文を通した文章の展開や心情の流れを把握することが大切です。出題は論理的な文章と心情的な文章の各1題が基本となります。記述式の問題も含まれますから、抜き出しだけでなく、まとめて表現する力も養っておいてください。そのほか、ことばや国語の基本的知識を十分学習しておいてください。

### 理科

物理・化学・生物・地学の4分野から均等に出題しますので、小学校で学ぶ知識をもとに、幅のある応用力を身につけてください。また、的確な論述力も必要となります。

### 社会

地理・歴史・公民の3分野を融合した論述問題が中心になっているので、地理や公民も、歴史との関係で学習しておくといでしょう。歴史は日本の歴史が中心ですが、日本と世界の関係も重視しています。地理・公民は時事的な視点も入れています。各分野の基本的な知識は覚えておく必要がありますが、やたらに細かい丸暗記は必要ありません。それよりも、できるだけ興味を持って考え、資料を読み取って問題点を的確に表現できるような力を育てておいてください。

## 学習院中等科

### 算数

問題数は例年と同様、5～6題で、計算や簡単な求積問題と基本的な文章問題、応用問題という構成で出題する予定です。文章問題には、ほとんど部分点があります（答えのみを書いても、ほとんど点になりません）。

### 国語

論理的文章と文学的文章の2系統から出題しています。漢字の学習をきちんとやっておくとよいでしょう。記述式の問題の対策も大切です。

### 理科

環境分野も含め、全分野から出題します。実験・観察・観測の結果の解釈も重視し、最近、話題になった科学・技術分野の出来事からも出題します。

### 社会

地理的分野・歴史的分野・公民的分野をほぼ均等に出題し、基礎的な知識を問います。地図・統計・史料などから多角的に出題し、社会的現象をとらえる力を見ます。

## 暁星中学校

### 算数

単なる計算問題や単純な公式に当てはめる問題の出題は避けていく方針ですが、問題を解くうえで必要となる基本的な事項を問うことも考えています。全体としては、自分の持っている数理的能力で考えて解くような問題、またしっかりと問題の文章を読まなければならない問題を出題したいと考えています。答案の書き方ですが、途中式や計算も書くように指示されている場合は、必ず書いてください。正解に到達していなくても、正しい論理に部分点をつけるようにしています。学校の教科書を基本にしなが、数理的な力を養える問題を解くようにしてください。

### 国語

長めの物語文で、「自分のこととして受け止められるようなもの」を出題する予定です。記述では、部分点も設けています。特に「自分のことばで説明しなさい」という問い掛けに対する答えを楽しみにしています。毎日の経験を大事にして、その積み重ねを通して身につけた自分の考えをきちんと伝えることのできる子どもであってほしいと願っています。

### 理科

物理・化学・生物・地学の4分野にわたって出題します。どの分野にも基本的な設問があるのでしっかり押さえてください。この入試では、小学校で学んだり体験したりしてきたことのなかから、自然科学の基本的な原理・原則を理解しているかどうか、また、日常生活の中で目に触れる身近な自然現象を科学的なセンスでどれくらい説明できるかを見たいと考えています。そして、「これは一体何だろう」「どうしてだろう」という好奇心や興味を持つという姿勢がある子ども、それについて調べたりするという経験を積んだ子どもを歓迎します。

### 社会

歴史・地理・公民的分野から満遍なく出題する方針です。難易度もごく基礎的なものから発展的な問題までバランス良く出題するように心がけています。漢字についてですが、記入を指定した問題は過去にあります。この場合は、漢字の間違ひも仮名書きの場合も正解とみなしません。重要語句に関して、小学生が知っておくべき漢字は書けるようにしてください。

## 京華中学校

### 算数

中学校の数学の授業を理解できる基礎力があるかどうかを見るために、四則演算、基礎的な小問を出題します。大問は難問というものではなく、文章を読んで理解し、物事を明確にとらえて数式に直して計算できるかを試す問題を出題します。

### 国語

2000～3000字の長文で、文学的文章と説明的文章を各1題ずつ出題します。登場人物の心情把握・理由説明については選択肢や記述形式で出題し、傍線部のことばの言い換えや理由を問うものは抜き出し形式で出題します。漢字については、小学校の学習漢字の読み書きを独立して出題します。

### 理科

物理・化学・生物・地学の全分野について出題します。日常生活のなかでの興味や疑問を大切にしているかどうか、考察力があるかどうかを問う問題を分野ごとに出題します。また総合問題として出題する場合があります。

### 社会

地理分野・歴史分野を中心に出题します。特に歴史分野では、特定の時代に偏ることなく、年代ごとの特徴や人物・事件などを古代から現代にかけて問う問題が出题されます。また、時事問題に関しても出題することがあります。有名な地名・人名は漢字で書けるようにしておいてください。

## 攻玉社中学校

### 【第1回・第2回】

#### 算数

例年どおり大問 5 題の出題を予定しています。[1]は基本的な計算問題（分数や小数の四則・空欄補充・用意された計算記号を使うなど）、[2]以降は場合の数・規則性・グラフ・平面図形・空間図形などについての文章題が出題されます。各大問は 4 問程度の小問に分かれています。定規・コンパスは持ち込み可です。分数は「帯分数」「仮分数」とともに○にしていますが、約分忘れは減点します。また、比の形で答えるときも、「最も簡単な整数の比で」と指定があるので、それに従うようにしてください。

#### 国語

漢字の読み書きの問題、慣用句などの幅広い日本語の知識を問う問題と文章題を出題しています。文章題は、文学的な内容のものと、論理的な内容のもの 2 題を出題しています。文章題では、記述力も含めてさまざまな観点から国語力を問うようにしています。漢字に関しては「とめ・はね」まできちんと書いてください。日ごろから辞書などを使い、語彙を増やしておくといでしょう。

#### 理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から満遍なく出題し、日ごろの勉強の成果を見たいと思っています。配点については 4 題でほぼ均等になるように配慮します。また、できるだけ実験や観察に題材を取ったものを出題したいと思います。問題文に書かれた実験結果や観察結果から何を読み取るのが重要なポイントになります。

#### 社会

地理・歴史分野を中心に大問 3 題を出題する予定で、両分野の配点も約半分ずつと考えています。文章の空欄補充、下線部に関する設問、場所の特定などの一般的な出題形式で、日本の地誌や産業、旧国名や歴史上の事件・人物などに関する問題になります。過去の問題をよく見ておいてください。出題傾向を知るうえで参考になるはずですが、都道府県名・旧国名・歴史事項・人名などは漢字指定を予定しています。しっかりと学習しておくことが必要です。

### 【特別選抜】

#### 算数

「算数①」は、問題文が 2～3 行程度の小問 10 問で、答えのみを記入する形式です。計算、関数、数列、場合の数、図形、論理的思考など、算数に関するさまざまなジャンルから出題します。「算数②」は、長めの文章題が 3 題で、途中の考え方も記入する形式です。これまでの出題分野は、整数問題、やや複雑な数列、中学数学に通じる図形、計算量の多い立体の計算などです。

## **国語**

[1]は放送にて読み上げられる問題を聴取し、それに答える形式の音声入試です。漢字力、文章内容の理解力を問います。[2]は小論文入試です。資料をもとに設問に答える形式になります。400字程度の論述が含まれます。要約など文章をまとめる練習をしておいてください。

## 佼成学園中学校

### 算数

分数・小数の計算問題、速さや割合・線分図などを使って解く問題、図形の問題は頻出です。問題数は計算問題 5 問、小問題 6 問、文章問題の大設問が 3 題で 9 問、合計 20 問です。配点が均等なので、解ける問題から数多く解くことが大切です。

### 国語

文芸的文章は心情や人間関係の把握を、論理的文章は論理や文意の理解を問う問題です。また、指示語の指示内容や接続の関係を踏まえた文脈の理解を問う問題、表現技法や文法、基本的な語彙力を確認する問題もあります。漢字の読み書きを問う問題は必ず 10 問程度出題します。

### 理科

4 分野から配点をほぼ均等に、基本的知識を問う問題、実験や観察の過程について問う問題、理科的な考え方を問う問題を出題します。また、その年度の理科的なニュースが題材となっている問題もあります。小学校の教科書に出てくる「二酸化炭素」など、基本的な用語の漢字間違いは不正解となります。

### 社会

3 分野から出題します。基本的知識を問う問題、日常生活での社会的な出来事を題材とした問題、地図・グラフ・資料などを見て考える問題などです。歴史上の人物や地名など、基本的な用語は漢字で書けるようにしておきましょう。日本の川や山脈などの位置、歴史的な事件の起こった年代などを正確に覚えておいてください。基本的な統計資料も確認しておきましょう。

## 駒場東邦中学校

### 算数

設問は計算が正確にできるか、理解力はあるか、発想はどうかなどの基準を設けて作っています。また、作問に当たっては、型にはまらない、実験などをしながらみずから解答を作り上げていくような題材を工夫しています。それだけに、問題集などを繰り返し勉強することも大切ですが、日ごろから一つの題材をいろいろな角度から分析する習慣を身につけてほしいものです。また、答えを出すに当たって、どう考えたかをほかの人に伝えられるような表現力を身につけてください。

### 国語

長めの文章を読み、登場人物の置かれた状況や登場人物の心情を正確に読み取ったうえで、自分のことばで表現する力を測ります。限られた時間のなか、先入観にとらわれることなく、本文を根拠として行間を想像する力や、出題の意図を正確に理解し、自分の表現で記述する力が求められます。漢字の書き取り問題は「とめ・はね・はらい」はもちろん、字の形にまで注意して正確に、いねいに書いてください。

### 理科

豊かな知性と科学的教養を身につけるための思考力を試す問題を出題します。単なる暗記だけでなく、学習した知識を、より新しく複雑な現象などに応用できるようにしておく必要があります。学校で学習した内容を問う問題でも、実験や観察に基づいた科学的な考えを持っていないと、簡単には答えを導けないこともあります。ふだんから身の回りの自然や現象について興味を持ち、予想に基づいて、確かめる実験をしたり、ていねいな観察をしたりして、科学的に考える習慣を身につけておきましょう。また、それをことばで説明する練習も大切です。

### 社会

さまざまな社会問題を学習していくために必要な基礎知識、思考力、そして表現力がどれだけ身につけているかを問う問題を心がけています。問われる知識自体は、小学校の教科書に出てくる事柄、および小学生でも知っておくことが望ましい時事的事柄に限られます。そのうえで、知識として知っているかどうかにとどまらず、「なぜ?」「どうして?」をどれだけ考えられるか、考えたことを的確に表現できるかが問われます。日ごろの学習では、ただ単に断片的な知識の量を増やすのではなく、「なぜ?」「どうして?」をじっくり考えながら、地理・歴史・公民という枠にとらわれない視点も持って、理解を深め、表現できるよう心がけてください。

## 芝中学校

### 算数

中学入試の標準的な問題が解けるかどうかを見たいと考えています。1 回入試では、基本標準問題を 8 割、やや難しい問題を 2 割、2 回入試では、基本標準問題を 7 割、やや難しい問題を 3 割くらいに設定しています。いずれも、できるだけ多くの分野から偏りのない出題を心がけています。基本標準問題ができないと、合格点に達しません。途中式は見ない（解答のみを記入）ので、ていねいで確実な解答を心がけてください。

### 国語

入学後の授業では、読解力と作文力の養成に力を入れているので、入試でもその二つの力がある生徒を選抜したいと考えています。漢字の読み書きに関しては、小学校配当の字に限定していますが、小学生が日常生活で使う機会の少ないものも出題してありますので、日ごろからたくさん読書をするように心がけてください。また、「とめ」「はね」「はらい」など、形のポイントには気をつけてしっかりと書いてください。長文問題は、「大意や論理的展開を読み取る問題」と「登場人物の気持ちを読み取る問題」の 2 題です。いずれも、文中の離れた場所にある関連部分を見つける力が必要になるので、文章全体を読んで答える訓練をしてください。記述問題については、今後も出題していきたいと考えています。過去には、50 字、70 字、80 字などの分量の記述問題を出題しています。

### 理科

総合問題 1 題と、物理・化学・生物・地学の各分野からそれぞれ 1 題ずつを出題します。総合問題では、「芝太郎君」が活躍する文章のなかから、理科に関する基本的で全般的な問題を出します。分野ごとの問題では、基本的な問題に加え、実験や観察から考える問題も出す予定です。計算力も必要となります。日ごろから理科に関する事象に関心を持つことで、豊富な知識を身につけてください。

### 社会

地理・歴史・公民の全分野から幅広く出題します。教科書を中心とした基本的な知識が身についているかどうか、また、キーワードの暗記だけでなく、各分野を広く見通すことができているかどうかを見ます。問題数は少なくありませんが、基礎・標準レベルの問題が多いため、この部分で取りこぼしのないよう気をつけてください。また、社会で起こっていることに関心を持ち、学ぶ姿勢があるかどうかを見るために、100 字～150 字程度の論述問題を出題しています。ここでは、指定された語句をもとにして、リード文に書いてあることをまとめる力が求められます。いくらまとまりのある文でも、リード文を読まずに自分の意見を書いては正解にはなりません。過去問をもとに練習をしたかどうかではつきり差がつく問題といえるでしょう。

※以上の、各教科からのメッセージは、過去問に基づいてまとめたものです。

## 芝浦工業大学中学校

### 算数

大問が3題で、うち1題は小問集合(12問前後)です。本校の数学科の授業では、答えを出すまでの過程を重視しており、中学入試でもその特色を生かして出題しています。つまり、小問を含めすべての問題の解答欄に、答えを書く欄以外に途中の過程を書く欄があり、答えが違っていても部分点を与えるように採点しています。

### 国語

文章題は2題出題され、1題は小説などの文学的文章、もう1題は説明的文章です。説明的文章は、比較的平易な文章を出題するようにしています。ほかに韻文(詩・短歌・俳句等)、一般常識(ことわざ・熟語など)、漢字などが出題されます。

### 理科

物理・化学・生物・地学の4分野から満遍なく出題されますが、比較的多いのは物理・化学分野からの出題です。問題は、選択肢から選ぶものや、数値を記入するものが中心ですが、記述式の問題も出題されます。本校の授業では、特に第1分野(物理・化学)で多くの実験を行っています。したがって、入試でも実験に関する問題が出題されます。

### 社会

総合的な視点に立ち、地理・歴史・公民の3分野にわたる問題を出題します。各分野のバランスを考慮しますが、配点は必ずしも各分野均等とは限りません。問題は基本的でスタンダードな内容です。とりわけ中学入試での出題頻度の高い語句・人名・地名・出来事などは、確実に理解し覚えるようにしてください。また、漢字で書くべき固有名詞などは漢字で書くようにしてください。

### その他関連情報

※中学・高校での授業を円滑に進めるために、小学校の指導要領に準拠した問題だけでなく、ほかの範囲からも出題します。

## 城北中学校

### 算数

出題の主な狙いは次の点です。①算数に対する基本的な考え方がきちんと身についているか。②調べながら規則性などを見つけ出し、数え上げることができるか。③図や図形を自分で描き表してみることを通して考えることができるか。一部には多少難しめの問題もありますが、問題文をよく読んで、何をどう考えて答えればよいかを正しくつかむ力も大事です。また最近では、計算力がやや落ちている傾向もあります。「一行計算問題」も含めて、速く正確に計算できる力をしっかり養ってください。

### 国語

なるべくオーソドックスな問題で、受験生の力を多面的に判定できる出題を心がけています。論説・説明文、および文学的文章から各1題、漢字の書き取り問題、ことばに関する問題を出題します。選択式の問題だけでなく、記述式の問題もありますので、記述力もしっかり養ってください。

### 理科

全分野にわたって偏りなく出題します。本校の理科教育では実験・実習を多く取り入れ、思考力を養っていくことを大切にしていますので、入学試験でも単なる暗記力や知識だけで答えられる問題のほかに、実験・観察に基づく問題、計算の必要な問題、記述問題など、できるだけ考えて答えていく問題の作成に努めています。

### 社会

「地理・歴史・公民」の各分野から、偏りなく出題します。地理は、日本の地理を中心に、自然や産業、文化などを幅広く出題します。歴史は、日本の歴史で、古代から現代まで偏りなく正確な知識を求めます。公民は、日本の政治や社会・経済の仕組みを問う問題が中心ですが、日ごろからニュースなどに意識的に接しているかどうかを見るため、時事問題も出します。なお、主な事柄や人物名などは漢字で書けるようにしてください。

### その他関連情報

※1、2、3回の各回の試験で、特に難易度に差をつけることはしていませんが、各回の試験の持つ意味や性格を考慮して、1回目試験（1日）は標準的な問題を中心とし、3回目試験（4日）は本校独自の傾向を持たせた問題も出題します。

## 巣鴨中学校

### 算数

50分・100点満点。大問5題で、[1]～[3]は数量、計算、文章題、場合の数など、[4]は平面図形、[5]は空間図形（立体図形）です。小問集合の問題はありません。問題の配列は[1]がいちばん易しいとは限りません。問題用紙は2枚です。大問はそれぞれ(1)が「易しい～標準問題」、(2)が「標準問題」、(3)が「標準～やや難しめの問題」からなります。各大問で(1)(2)ができれば全体でほぼ6割になります。解答用紙は1枚で、式と答えを書く欄があり、式も採点対象で部分点もあります。字はていねいに書いてください。方程式を利用しても構いませんが、何をXとしたか明記してください。

### 国語

50分・100点満点。[1]は漢字10問、1問1点です。小学校の学習漢字から出題しますが、漢字そのものを知っていても、ことばを知らなくて書けないということもあります。[2][3]は随筆文と論説・説明文で、それぞれ2000～3000字です。[2]と[3]を合わせても、6000字を超えることはありません。小説や詩・短歌などは出題していません。筋道を追って文章を読めるか、論理的に考えられるかを問います。随筆では気持ちや心情を問う問題もあります。記述は2～4問程度で、総字数でも100～200字程度です。中間点、部分点もありますので、最後まで書き通すようにしてください。

### 理科

30分・50点満点。物理・化学・生物・地学の4分野から1題ずつ出題し、配点はそれぞれ10～14点です。それぞれのテーマを決めて出題します。記号・数字は読みやすくはつきりと書いてください。漢字指定の場合は、当然漢字で書いてください。生物・地学については、小学校レベルの知識を細かく覚える必要があります。物理・化学は計算があり、論理的思考力を試す問題になっています。化学は、小学校で出てくる物質は限られているので、よく勉強しておいてください。各問は、易しい問題から、難しい問題の順に並んでいます。平均点は30点くらいです。

### 社会

30分・50点満点。地理20点、歴史20点、公民10点の配点です。3分野にまたがる総合問題は出しません。記号問題がたくさんありますが、記号・語句を問わず1問2点で25問です。記号はていねいに書いてください。語句を答える問題が3～5問あり、人物や都道府県名、地形の名称などを漢字で答える形式です。その場合、ひらがなでは間違いとなります。漢字の「とめ・はね」についてまではこだわりませんが、ていねいに書いてください。平均点は25～30点くらいなので、合格には35点以上を目標にしてください。

### その他関連情報

※各教科とも、I期とII期の問題は、ほぼ同じ形式でレベルも同じです。合否は4科目の総合点で決めます。科目ごとの足切り点はありません。

## 成城中学校

### 算数

冒頭に計算問題が 2 題あり、15 点前後の配点です。文章題は幅広い分野から出題されます。問題数は 10 問前後で、解答数は 20～25 程度です。解答用紙には解答のみを記入する方式なので（途中式は見ません）、計算間違いのないよう十分な注意が必要です。

### 国語

大問を 3 題出題します。1 題は漢字の読み書きが 10 問（配点 20 点）で、2 題は長文読解です（各 1500～2000 字程度）。長文読解の設問は客観的なものが多く、記述させる場合も本文中のことばを用いて解答するものが中心となります。1 題は文学的文章（小説など）で、もう 1 題は論理的文章（評論など）です。

### 理科

4 分野からそれぞれ 1 題ずつ（解答数は 25～30 程度）均等に出題します。基本的な知識を確認しておきましょう。また、実験データの表やグラフから規則性を見いだすことも大切です。計算問題は答えのみが採点の対象となりますので、ミスのないよう十分注意しましょう。

### 社会

地理・歴史・公民の各分野から均等に出題します。人々の暮らしを成り立たせているさまざまな背景や条件について、どのくらい関心を持って学んできたかを問いたいと考えています。例年、地形図に関する問題や時事問題を出題しています。漢字指定の問いもありますので、大切な用語はしっかりと覚えてください。

## 世田谷学園中学校

### 算数

計算力とスピードと正確さが要求されます。難問・奇問は出題されません。一つひとつの考え方を身につけ、定着させることが大切です。記述式の問題は過程もていねいに見るの  
で、しっかりした答案を作ることを心がけてください。

### 国語

文学的文章と論理的文章の2題を出題する予定です。記述は途中点を考慮しますが、安易な抜き出しは得点に結び付きません。漢字や語句の意味、接続詞や語句の空欄補充などで  
点数を落とさないようにしましょう。

### 理科

覚えるべき内容はしっかりと把握し、計算力・観察力を養い、考える習慣をつけることが  
大切です。実験に関する問題、物理・化学の計算には注意してください。基本的な用語は  
漢字で書けるようにすることも重要です。

### 社会

単なる重要語句の暗記に走らず、地域の特色や歴史的流れを十分に理解しながら漢字で書  
けるようにしましょう。日本の自然や歴史、時事的な事象についての理解を問う問題もよ  
く出されます。

## 高輪中学校

### 算数

「A・B・C 日程」は大問 6 題、小問 20 問前後で、答えのみを記入します。[1]は基本的な計算・単位、[2]は 1～2 行の基本的な文章題、[3]～[6]は標準問題から応用問題です。数量・図形の出題比率は同じです。「算数午後入試」は標準問題から応用問題の大問 4 題で、出題分野は「A・B・C 日程」と大きくは変わりません。ここでは答えのみではなく、途中経過や記述・作図なども採点の対象となります。方程式の使用も認めています。

### 国語

前回までとは異なり、大問 3 題で、[1]は漢字の知識とことばの問題、[2]は 2000～3000 字前後の随筆、[3]は 3000 字前後の小説からの出題です(順序は変わる可能性あり)。[2][3]は読解問題中心で、筆者の考え方や、登場人物の心情をつかむことが大切です。

### 理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から各 1 題出題されます。基本的な事柄を問う問題から応用力を試す問題まで幅広く出題されます。各分野とも配点は均等で、15 点前後です。選択肢から答える問題もありますが、計算問題、説明問題、作図問題なども出題され、定規が必要な場合もあります。

### 社会

地理・歴史・公民の割合は各 20 点程度で同じ。地名・人物名などに漢字指定があります。時事問題にも注意しましょう。日常生活のなかで社会の動きに関心を持つことが大切です。解答に当たっては、出題者の意図を考えて答えるようにしてください。人名・地名・事柄・事件などは漢字で正しく書けるようにしてください。

## 東京都市大学付属中学校

### 算数

〈出題方針〉1回～4回ともに、[1]は小問集合、[2]～[5]は大問です。[1]の小問集合は、計算、割合、特殊算、図形など幅広い分野から基礎的な一行問題を出題します。[2]～[5]の大問は、文章題（数量）2題、図形2題の予定です。配点はすべて1問につき5点～6点です。出題傾向は例年どおりですから、過去問にしっかり取り組んでください。

〈受験生へのアドバイス〉難問、奇問は出題しません。標準的な問題を確実に解けるようにすることを心がけてください。つるかめ算、速さに関する問題のほか、図形分野では、比を用いた面積・体積の問題、等積変形の問題についてよく学習しておきましょう。

### 国語

〈出題方針〉基礎的な力（読解力・知識）を問うことを中心として問題を作成しています。文章問題において特に意識していることは、多様な文章に対応できる力です。長文では筋道立てて正確に読み取る力、詩では比喻や省略などの表現から筆者の言いたいことを読み取る力を測ります。また、知識問題においては、漢字の書き取り、ことわざ、慣用句などから、バランス良く知識を問うようにしています。

〈受験生へのアドバイス〉まず、苦手なジャンルをつくらないように、さまざまな文章を読むことを心がけてください。また、知識問題に関しては、ただやみくもに暗記をするのではなく、資料集を活用したり、辞書の例文を読んだりして、工夫して覚えるようにしてください。問いに対して的確に答えるために、設問をよく読むことも大切です。過去問を解き、出題パターンや問いの表現などに慣れておくことをお勧めします。

〈配点や採点基準について〉漢字の書き取りはもちろん、記述問題でも漢字・ひらがなを問わず、字の体裁がおかしいもの、画数が正しくないものなどは減点対象としています。記述問題については、原則として、指定した字数の7～8割は書くようにしてください。字数・誤字・キーワードの欠落などによって、減点とすることがあります。

### 理科

〈出題方針〉物理・化学・生物・地学の4分野からバランス良く出題します。作問に当たっては「理科全般の基礎的な知識を持っていること」「実験データやグラフが読み取れること」「文章から必要事項が読み取れること」「数値計算ができること」の4点を重視しました。

〈受験生へのアドバイス〉4分野について偏りのない学習を行い、基本事項を確実にして、現象の説明ができるようにしてください。また、用語は正確に覚えておくことが必要です。練習問題や過去の入試問題を、時間配分に気をつけて解いてください。問題の前文や会話文がヒントになることもあるので、問題文を注意深く読みましょう。

〈採点基準〉説明問題で部分点を与える場合があります。記述問題では、漢字指定の場合を除き、ひらがなで書いても減点はしません。

### 社会

〈出題方針〉地理・歴史・公民の3分野から出題します。出題に当たっては、次の点を意識して問題を作成しています。地理においては、雨温図、地形図、統計グラフなどを正確に読み取ることができるかどうか、歴史では、時代ごとの政治・経済・文化の違いを理解しているかどうか、公民では、憲法や国内政治の仕組みを理解しているかどうか、環境問題や国際関係などを含めた時事問題に興味・関心があるかどうか、といったことを見ます。なお、3分野に共通して、人名・地名・事件名など、小学校で学習した社会科の基礎用語については正確に書くことが大切です。漢字指定の場合は、問題文中に指示してあります。

〈受験生へのアドバイス〉3分野にわたって偏りのない学習を行い、基礎用語を正確に理解しておいてください。また、日ごろから新聞やテレビの報道番組をチェックし、時事問題にも関心を持つよう心がけてください。練習問題や過去の入試問題を解いて、理解を深めておくことも大切です。

## 獨協中学校

### 算数

基礎的な計算力、文章問題を正しくとらえる力、図形を見て考える力などを試します。問題集を利用して学習するときには、図を描いたりしながら、さまざまな解き方を自分で考えるように心がけてください。実際の入試問題には、解答欄のほかに空欄が用意されています。そこに解答を導くための式や考え方がきちんと書いてあれば、採点者はそれを評価し、部分点を与えることがあります。解き終わっても絶対に消さないでください。ただし、必要のない式や間違った解き方はきれいに消しておくことも忘れずに。

### 国語

漢字の書き取りは、画数を意識しながらていねいに書いてください。乱雑に書かれたものは正解になりません。長文問題では、細かな知識よりも読解力を重視します。物語文の場合は、さまざまな情景や登場人物の心情を正確につかむこと、説明文の場合は、文章全体の筋道を読み取ることが大切ですから、情景や心情を思い浮かべるように読んだり、論理的に読んだりする訓練を日ごろからしておきましょう。設問に答えるときは、傍線部付近だけを読むのではなく、文章全体から考える習慣を身につけておきましょう。また、必要に応じて「こと。」「から。」を付けることを忘れないでください。文末表現が不適切な解答は減点の対象です。

### 理科

小学生の皆さんが日常の生活の中で経験したり関心を持ったりする題材を取り上げて、そのなかに含まれる科学的なものの考え方や知識を尋ねる問題を中心に出题します。一見、見慣れない問題のように思えても、問題文をよく読み、問題文に導かれながら考えを進めていくと答えが出てくるようになっていきますので、じっくりと考えてください。高度な知識よりも、結論を導く過程（正しい作業や考え方）を重視して問います。基礎的な計算力（理科では小数で答えを求めます）も問いますので、ふだんから練習しておくとういでしょう。

### 社会

基本的には教科書の範囲から出题します。地図の見方、教科書に出てくる統計資料や歴史上有名な絵・写真などを使った記述問題が出题されますので、日ごろから教科書の図や表はよく見ておきましょう。漢字指定の問題ではひらがなで書いた場合は正解になりませんので、基本的な地名・人名・用語は漢字で書けるようにしておいてください。記述問題では部分点もありますから、最後まであきらめずに書いてください。地理・歴史・公民・時事の4分野すべてをバランス良く出题しますので、日ごろからニュースや新聞（小学生新聞でよい）には目を通しておくとういでしょう。

## 日本大学豊山中学校

### 算数

主として小学校 5、6 年で学習する内容で、計算・図形・グラフ・比などの基本的な問題と、よく考えて答えを出すような問題が出されます。特に計算力に重点を置いています。

### 国語

小説・説明的文章から出題し、漢字の読み書き・ことばの意味・心情理解・内容把握など、基礎的な問いを中心としています。選択問題と記述問題をバランス良く出題しています。

### 理科

4 分野から満遍なく出題。実験・観察から思考させる問題も出題します。

### 社会

地理的分野は人々の暮らしと、それに関連する地域(国内外)の特徴をつかんでおくこと。歴史的分野は歴史上の人物を含めて、政治史・経済史・文化史などを幅広く学習しておくといでしょう。公民的分野は政治や身近な社会の仕組み、日本と世界のかかわりについて学習しておくといでしょう。

## 本郷中学校

### 算数

例年どおり、大問は5～6題です。計算問題が2問、一行問題が4～6問で、文章題など合計15問前後出題されます。文章題のなかには、グラフを読み取る力を見る問題や、図形（平面・空間）の問題が含まれており、なるべく取り組みやすい問題を先に持っていくようにしています。中学校での数学の授業についていけるよう、正確に速く計算できるか、きちんと考えられるかを問いたいと考えています。

### 国語

論説文や説明文などの論理的文章と、物語文や随想文などの文学的文章からの大設問を一つずつと、漢字の設問の計3題を出題します。読解問題をはじめとして、語句の意味や空所補充など、さまざまな形式で問題を出題する予定です。漢字の問題は1割程度の出題です。記述問題では、文末処理や誤字による減点があります。正確に書かれていない文字は、得点にならないこともありますので、ていねいな字で書くように心がけてください。

### 理科

物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。4分野の配点はほぼ均等で、出題傾向は大きく変わっていません。基本的な知識や計算力などの基礎力を身につけているか、さらにその基礎力を応用することができるかを問う問題です。表やグラフを読み取る力や実験に対する考察力を問う問題もあります。身近な生活の中にある科学に興味を持って勉強に取り組んでください。最近話題となった自然科学に関するニュースなども勉強しておくとうよいと思います。

### 社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。配点はそれぞれ25点ずつです。地理分野では、「地図・統計・グラフなどの資料」が理解できているか、それぞれの地域の特色を理解しているかを問います。また、地形図の読図の問題は必ず出します。歴史分野では、丸暗記ではなく、歴史の流れをしっかりと理解しているかどうか、また、基本的な知識を正確に持っているかどうかを問います。公民分野では、基本的な知識に加えて、新聞やニュースなどに興味を持って勉強に取り組んでいるかなどを問います。憲法を読み、関連する基本的な知識を理解しておいてください。漢字の指定もあります。正確に書かれていない文字は得点にならない場合がありますので、ていねいな字で書くように心がけてください。

## 明治大学付属中野中学校

### 算数

計算や文章題、平面・立体図形など、小学校で学習する全範囲から出題します。例年の問題構成は、計算・小問が8～10問程度、文章題、グラフの読み取り、平面・空間図形などの問題が8～10問程度です。点数が確実に取れる問題から取り組み、速く正確に計算ができるように計算練習を着実に行ってください。

### 国語

例年の問題構成は、長文読解問題が60～70%、小問が30～40%です。記述式問題も多く、誤字・脱字がある場合や答え方が不正確な場合（理由を問われているのに「～こと」と答えるなど）は減点の対象になります。また、指示語、接続詞、主語、係り受けの問題も頻出しています。小問については、漢字の読み書きを20点前後出題する予定です。小学校の学習漢字の範囲内ですが、字はていねいに書くことを心がけてください。そのほか、四字熟語・慣用句・ことわざ・語の意味・ことばのきまり（文法）などからも出題します。

### 理科

大問は5～8題（小問25問程度）で、物理・化学・生物・地学の4分野から出題されます。解答形式は「選択式」「語句を解答」「計算による数値解答」が多く、10～20字の記述式問題が出題される場合もあります。問題の主な内容は、知識を問うもの、法則を使って論理的な思考力を問うもの、実験・観察に関するものなどです。物理は法則を利用した計算が多く出るので、より多くの問題演習に取り組んでください。化学は反応の量的な計算と、物質に関する知識を増やす学習に励むこと。生物は動植物に関する内容です。地学は天体・気象・地層に関する内容ですが、覚えるものと論理的に思考するものがあるので、地道な学習を続けてください。

### 社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。人名・地名・用語を漢字で正確に書けるようにしておきましょう。また、過去1年間の時事問題（新聞の第1面記事程度）が各分野から出題されるので、新聞に目を通すことを心がけましょう。歴史はある事象に対して原因から結果までの流れを身につけましょう。地理は日本地理を中心に多く出題することが多く、世界地理はあくまで小学校の基礎レベルまでと考えています。地名については地図帳で位置を確認しておきましょう。公民は日本の政治を中心に多く出題することが多く、世界については小学校の教科書に出ている程度を考えています。

## 明法中学校

### 算数

大問は 5 題。計算問題、基礎知識を見る小題と思考力を見る問題を出題します。過去問を確実に学習し、特に例年出題される分野は、どんな形式で出題されても大丈夫なように、問題集などでしっかり解法を身につけることが大切です。また、計算問題の正答率が高いので、ケアレスミスによる失点をしないよう注意してください。

### 国語

大問は 2 題で、うち 1 題は論説など論理的な文章、もう 1 題は小説など文芸的文章が題材となります。基礎的な問題として、漢字の書き取りと読み、語句の意味や内容把握（主語の抜き出し、適切な接続詞の選択など）を出題します。この分野では確実に得点できるようにしましょう。作文について、2012 年度入試では第 1 回の 2 月 1 日午前入試でのみ出題します。配点は 15 点程度。字数は解答用紙に 150 字程度のマス目があるので、その 8 割以上は書いてください。5 割に満たないときは採点をしない場合があります。日ごろから自分の考えや気持ちを相手に伝えられるよう心がけて文章を書きましょう。

### 理科

試験時間 30 分で満点は第 1 回 60 点、第 2 回 75 点です。物理・化学・生物・地学の各分野から偏りなく出題します。内容は理科についての基礎的な知識問題、実験や観察から考えていく問題、身の回りの理科的な事柄についての関心を見る問題です。基礎的なものがほとんどですから、基本問題を繰り返し学習して、基礎的な知識を確かなものにしましょう。

### 社会

地理・歴史・公民の 3 分野と、地形図に基づく総合問題を出題します。公民分野では時事問題もあります。試験時間 30 分で満点は第 1 回 60 点、第 2 回 75 点です。各分野ほぼ均等の配点です。過去問を研究して傾向をつかみ、よく出題される基礎的な知識を固めるようにしましょう。